天地

ネットワーク テーブル　　５１６号

天地シニアネットワーク　２０２１．２．１６

TENTI TODAY			1
会員の広場			2
随　想	英会話の楽しみ（１４）バイデン大統領の就任演説	伊那　闊歩	2
論　考	中国人から見た日本人の言語表現理（２２） 「くせとしての隠す心理」－その２	兪　彭　年	6
回　顧	海外でのゴルフ　モーリシャス編　（１）	森永　善彦	7
随　想	少子化問題の死角	臺　一郎	１０
事務局			１０

****

ＴＥＮＴＩ　ＴＯＤＡＹ

****

＜春は名のみか　風の強さよ・・＞と小学唱歌（？）にありました。大地も、空も、そして草花も春の様相をみせはじめましたが、吹く風は冷たく、まだまだのようです。さて、１３日寝入りばなの地震は、今なお大雪のつづく北海道や日本海側地域の方々を思えとの警告だったかもしれません。震度４で最近にない強さでしたので飛び起きましたが、懐中電灯は点燈せず、非常用の持ち出し袋、食料品なども手探りで探すありさまで反省しきりというところです。

****

五輪組織委員会・森会長の辞任も、想定外の大地震でした。いまどき、どうして・・・というようなお粗末な発言でしたが、日本社会に根強く残る女性蔑視、女性軽視の風潮への強い警告となり、日本社会は過剰とも言えるような反応を示しました。

しかし、問題は新会長に誰が選ばれるかです。女性が良い、若手が良い、というような軽いと思われる発言は困ります。有事の最中ですから、本当の実力のある適任者を選ぶことが肝要です。安心して任せられる新会長が選ばれると良いのですが・・。その意味では、川渕さんは、最適だったように思えます。一日で消されてしまいましたが、候補者の一人に復活して、堂々と就任してもらいたいものです。老人だからダメというのはナンセンスです。

****

今回の事件森さんが集中砲火を浴びましたが、元首相のような老練な政治家が、問題化することがわかっているような内容の話を軽軽とするとは考えにくいところです。勝手な推測になりますが、東京都知事への不満、確執が鬱積となって溜まっていてあのように対象を変えた不用意な発言につながったと考えるのはいかがでしょう。内紛という次元の低い話ですので、関係者はしばし呆然、黙して語らず状態になったのではないでしょうか。その後に予定された 4 者会談、東京都知事は欠席、顔を合わせるのもいやだったのでしょう

****
前立腺がんの治療、検査を含めると１０か月ほどかかりましたが、最終の検査で結果良好、心配なしと言われました。そこで加入している生保の医療保険があり、給付がどのくらいあるか問い合わせてみましたが、入院がないので定額５万円のみとのことでした。最近は、病気になっても入院が少なくなっているとのこと、保険を続けるか思案しています。
****

会員の広場

****

英会話の楽しみ（１４）

伊那　闊歩

14.バイデン大統領の就任演説.

2021 年 1 月 20 日、バイデン大統領が米国国会議事堂(**the U.S. Capitol**)前で就任演説(**the inaugural address**)を行った。集まった聴衆は限られていたものの、テレビ中継により多くの米国民を魅了したものと思われる。今回はこの就任演説の中から要点を拾い集めて紹介しようと思う。

この数日まえに暴徒と化したトランプ支持者が議事堂内部に窓ガラスを破って乱入し、警官たちともみ合い、4 人も死者を出すという前代未聞の乱闘事件をひき起こしたのであった。米国には現在「赤」と「青」によって象徴される 2 種類の人たちが居て、普段はお互いに静穏を保って日々の生活を送っているが、何らかの事件がきっかけとなって彼らの間の対立がにわかに顕在化する下地があるらしい。あの南北戦争(**the Civil War,1861-1865**)の亡霊が人々の隙をうかがっては現れ出てくるように見える。

今回の大統領選挙もそうであった。キング牧師の公民権運動(**the civil rights movement, 1955-1968**)そして最近の **BLM movement (Black Lives Matter**. 黒人の生命は大切である、**2020**)も、それぞれ状況を異にしてはいるが同根の事件であったと思われる。大統領選挙ではこれまでいつも見られるように、勝者と敗者の差はほんの僅かである。今回もそうであったが、ヒラリー・クリントンとドナルド・トランプ（**2016**）、アル・ゴアとジョージ・ブッシュ、Jr（**2000**）の場合も結果は僅差であった。つまり、米国には意見を異にする人たちがほぼ同数いるわけで、大統領は国民の結束、連帯、一致団結を強く呼びかけるのだ。

演説は最高裁判所長官(**Chief Justice**),副大統領(**Vice President**,上院議長),下院議長(**Speaker**),上下両院院内総務(**Leader**)などへの挨拶からはじまり、選挙を制したのはひとりの候補者ではなく**大義**(**the cause**)なのであったと言明する。その大義とは民主主義をとりもどすことなのだ:

We've learned again that democracy is precious. Democracy is fragile. And at this hour, my friends, democracy has prevailed.
(私たちはふたたび民主主義は貴重なものだと学びました。民主主義はこわれやす

い。そしてこの時、友よ、民主主義が勝利したのです)　　fragile: こわれやすい
prevaile: 勝つ、効を奏する

解決すべき課題が山積するこの時期にあたって:

We'll press forward with speed and urgency for we have much to do in this winter of peril and significant possibilities. Much to repair, much to restore, much to heel, much to build, and much to gain.
(危険と同時におおきな可能性を秘めたこの冬、やるべきことはたくさんあり、私たちは緊迫したなかで速やかに困難を排してつきすすみます。修復すべきことがたくさん、回復させることがたくさん、癒すべきこともたくさん、建設すべきこともたくさん、そして獲得すべきこともたくさんあります）　press: 困難を排して押し進む

1863 年,リンカーン大統領が全身全霊をこめて奴隷解放宣言(Emancipation Proclamation)に署名したと同じく、米国民をひとつにすることに全霊を傾けたいとの決意を述べ国民に連帯することをもとめる:

Today on this January day, my whole soul is in this. Bringing America together. Uniting our people. Uniting our nation. And I ask every American to join me in this cause.　　(今日 1 月のこの日、私の基本精神のすべてはここにあります。アメリカをひとつにまとめること。わが国とわが国民を統一すること。そしてこの大義のため、すべてのアメリカ人に私と連帯することをもとめます)

そして

Uniting to fight the foes we face: anger, resentment, and hatred, extremism, lawlessness, violence, disease, joblessness, and hopelessness.　　（私たちが直面するさまざまな敵、つまり、怒り、憤懣、憎悪、過激主義、無法状態、暴力、病気、失業、そして希望の喪失などと闘うために結束しましょう。）　foe: 敵、障害、　resentment:憤り

こうして米国民が一致団結することにより:

With unity, we can do great things, important things. We can right wrongs. We can put people to work in good jobs. We can teach our children in safe schools. We can overcome the deadly virus.
(一致団結することにより、大きなこと、重要なことを為すことができる。不正を正すことができる。国民に良い仕事を提供することができる。子供たちを安全な学校で教えることができる。恐ろしいウイルスを克服できます)

我々を分断する多くの力は新しく出てきたものではないがそれだけに根が深く現実的なのだ。いまさら一致団結しようなどということは愚かな幻想のようにきこえる。私たちの歴史は、誰もが平等に創られているというアメリカの理想と、その一方で人種差別や移民排斥主義、恐怖、(敵対者を)悪者扱いすることなどの不快で醜い現実との間の不断の闘争によって作られてきたのです。その戦いは絶え間なく勝利は決して保障されてはいません。

(I know speaking of unity can sound to some like a foolish fantasy these days. I know the forces that divide us are deep, and they are real, but I also know they are not new. Our history has been a constant struggle between the American ideal that we are all created equal and the harsh, ugly reality that racism, nativism, fear, demonization have long torn us apart. The battle is perennial, and victory is never assured.) demonization:（敵対者を)悪者扱いすること perennial:絶え間なく

米国民は今までにも南北戦争や大恐慌、世界大戦、9/11 など多くの危機を一致団結して行動することによって乗り越えて前進してきました。そうすることで我々は失敗することはなかった。 （If we do that, I guarantee you we will not fail. We have never ever ever ever failed in America when we have acted together）

そこで

Let's begin to listen to one another again, hear one another, see one another, show respect to one another. (ふたたびお互いに耳をかたむけあいましょう。聞いてお互いを見るようにしましょう。お互いに敬意をはらいあうようにしましょう。)

当然のことではあるが分断された社会を融和社会に戻すためには、わざわざこう言って念をおしておかなければならないのだ。そうして

I will be a president for all americans, all americans. And I promise you I will fight as hard for those who did not support me as for those who did. (私は全てのアメリカ人のための、すべてのアメリカ人のための大統領になるでしょう. そして私を支持してくれなかった人たちにも、支持してくれた人たち同様、懸命に戦うことを約束します）

What are the common object we as Americans love that define us as Americans? I think we know. Opportunity, security, liberty, dignity, respect, honor, and yes, the truth. （私たちをアメリカ人と定義する共通の愛情の対象は何でしょうか。私たちは知っています。機会、安全、自由、尊厳、名誉、そしてその通り、真実です）

Look, I understand that many of my fellow Americans view the future with fear and trepidation. （みなさん、私は多くのアメリカ人が恐れと不安をもって未来を注視していることを理解しています） Look:ほら、ごらんなさい など人々の注意をひくための掛け声 trepidation： 恐怖、おののき

しかしながら、自分と見た目が違うひとたちを警戒してばかりいるようでは、現状を打開できない。これは大義や理性的なものがなにも感じられない uncivil war なので、ぜひともこれに終止符を打ちたい （ We must end this uncivil war that pits red against blue, rural versus urban, conservative versus liberal. ） pit： 闘わせる

そのためには

We can do this if we open our souls instead of hardening our hearts if we show a little tolerance and humility.　(そのためには私たちの心を頑なにするのではなくわれわれの魂を開き、少し寛容になり、少し謙虚になることなのです)

最後に、これからのアメリカが如何に希望に満ちたものであるかを述べ、希望の実現のために国民の結束を願って演説を終える:

And together, we shall write an American story of hope, not fear; of unity, not division; of light, not darkness; a story of decency and dignity, love and healing, greatness and goodness.
(そして皆さん一緒にアメリカの物語を書くのです。恐怖ではなく希望の物語を;分断ではなく結束を;暗闇ではではなく光を;品性と尊厳の物語を、愛と癒し、偉大で善意の物語を)　decency：ことばづかいなどの礼儀正しさ。

大統領の演説は、考え方の異なる大勢の人たちを説得し信頼を得て、人々の行動を促すことにある。そのためには、難解なことばではなく誰でもわかる平易な、しかしながらインパクトのある言葉で語りかけなければならない。たとえば、第 35 代ケネディー大統領の

Ask not what your country can do for you; ask what you can do for your country. (国があなたのために何をしてくれるかと問うのではなく;あなたが国のために何ができるかと問うてください)

は有名である。古くは第 16 代リンカーン大統領のゲッティスバーグ・アドレスの結びのことば:

人民の、人民による、人民のための政治はこの地上から消滅することはない（government of the people, by the people, for the people, shall not perish from the earth. ）

は模範的な演説として特に有名で、米国の小学生はゲッティスバーグ・アドレスを必ず暗記させられるのだという。

ちなみに、リンカーン大統領の演説の前座をつとめたエヴァレット（ハーバード大学学長、元国務長官、元上院議員）は 2 時間も演説し、聴衆は演説にあきあきしてリンカーン大統領の演説は騒音でかき消され、ほとんど聞こえなかったといわれている。

　にもかかわらずそのインパクトは絶大で、わずか 272 語のこの演説が歴史に残る名演説として人口に膾炙しているのだ。なお、リンカーン大統領はこれを 2 分半で喋り終えたという。つまり、リンカーン大統領は分速 110 語ほどのスピードで喋っている。これはかなりゆっくりとしたスピーチだったと思われる。

バイデン大統領の演説は分速 150 語ほどであったようで、テレビ局のニューズキャスターたちの 200 語前後のスピードにくらべて聴きやすかったのではないだろうか。バイデン大統領は伝統に則って、平易な言葉でわかりやすく真摯に優しく国民に訴え語りかけた。英会話を楽しむものにとっても大統領演説は、聴き取りやすく、平易なことばで物事を如何に表現するかという模範例を示してくれるのでたいへん有益であると思われる。

今回はパックンの著書 ― パトリック・ハーラン「大統領の演説」(角川新書)を参考にさせていただいた。「パックンの本を参考にした」なんて言わないでくださいよと本文で述べておられるが、これは実に緻密に考えぬかれた名著であると思う。ぜひ一読をお勧めしたい。

****

中国人から見た日本人の言語表現心理（２２）　　兪彭年

言語表現心理（㈣）

「くせとしての隠す心理」―その２

「表」と「裏」、「外」と「内」の分け方は中国にもある。中国にないのはセットとしての「本音」と「建前」であり、もちろん「建前」と「本音」を表わす意味のような言葉はあるが、日本のようにひとつの概念にはなっていない。だから訳語ではふつう「建前」が「场面话」（社交辞令、よそ行きの言葉）、「本音」が「真心话」（本当のこと）となる。ぴったりした訳語だとは思えないが、ほかにはないようだ。

というのは中国では「场面话」には相手をいい加減にあしらうとかお茶を濁すとかおざなりにするとかの虚偽的のマイナスイメージがあり、その場の体裁をよくし面子を保つきれい言葉となる。したがってこれを弄するものは非難されたり嫌われたりする。しかし日本の「建前」にはこのようなニュアンスはない。
したがって、中国人は日本人の「建前」と「本音」を中国的に理解しないようにすることが大切だ。使い分け意識を把握して、どれが「建前」であり、どれが「本音」であるかを見極める。これは言葉の学習だけでは不可能であり、日本の文化や風土などになじみ、そしてその事柄を研究しなければならない。

金田一春彦氏は「日本人の言語表現」の「顔で笑って心で泣いて」のなかで、相手を不快にしまいとして心をいつわること、心と口がちがうことなどを例でもって説明されている。これもくせとしての隠す心理の現れではないか。
　例のひとつ、「長居をするお客にしびれをきらしていても、いやな顔をしない。ようやく客が腰を上げようとすると、内心ホットしながらも『まあまあいいじゃないですか、どうぞごゆっくり』なんて言う……」。
　もう一つの例、「芥川龍之介の「手巾」は微笑をたたえながら愛児の死を語る母親が、テーブルの下では両手をぶるぶる振わせながらハンカチを握りしめていた情景を描いている」。
　中国でも長居の例のようなことはよく見かけるが、しかし心をいつわる原因は相手に不快を与えまいとする配慮はなきにしもあらずだが、自己の面子や体裁を良くするための心理が強く働くようだ。
　同じ心を隠す言語表現心理でも日本人は相手本位で、中国人は自己本位のようだ。

ハンカチの例のようなことは中国にないとは断言できないが、たいへんまれではないかと思われる。というのは自己の面子や体裁に悪い影響が生じなければ、感情を抑えて心をいつわるほどのことはしないからだ。

シリーズ映画「男はつらいよ」の主人公寅さんの物語を見ていると、日本人の心情がよくわかってくる。義理人情が隠すくせの心裏を通して、建前と本音の併存及び使い分けによって生き生きと描かれて、これが人に好かれる真の理由だと思われる。
しかし、現実の日本人はかなり変わってきている。特に若い人たちの変貌ぶりが目立つ。いまの世の中に寅さんのような人間はどのくらいいるだろうか。日本には義理人情などはもうなくなってしまったという声をよく耳にする。寅さんの人気に郷愁が含まれているようだ。
****

海外での想い出　　森永善彦

2021 年 2 月 11 日

海外でのゴルフ　モーリシャス編　（１）

本年も私の“海外の想い出”をお届けします。さて去年日本のタンカーがモーリシャスで座礁し、海洋汚染を起こした残念なニュースが有り、そう言えば自分も昔モーリシャスに行った事が有ったと思い出したので、その時のお話をしたいと思います。
特にその時にしたゴルフの事が記憶に残っているので、モーリシャスのゴルフについてお話しします。
ゴルフの話の前に、モーリシャスは南海の孤島で、皆様には余り馴染みがない所と思いますので、ウイキペディアで調べたデータも加えモーリシャスの概要を簡単にお話しします。

モーリシャスはインド洋の南西に位置し、世界最大の島と言われるマダガスカル島から東に約７００キロメートル離れた所に在ります。首都ポートルイスの有るモーリシャス島を中心に数多くの小島が有る群島です。面積は各島の面積を全部合計すると、東京都より若干小さい 2040 平方キロメートルで、総人口は 130 万人です。
歴史的にはヨーロッパの大航海時代以降、オランダ、フランスそしてイギリスに領有され、1968 年イギリスから独立しました。イギリスはここモーリシャスで砂糖のプランテーションを行い、原住民だけでは労働力が足りないので、インドから大量の移民を連れて来ました。この為、南太平洋のフィジーと同じくインド出身の人口比率が大きく、70％がインド系となっています。　街を歩くとインド人が沢山います。
経済は元々砂糖生産のモノカルチャー経済でしたが、その後繊維工業を発展させ、近年は自然に恵まれた立地を生かし、観光業も盛んです。なお日本の遠洋漁業の多くの漁船が燃料や水の補給の為、ポートルイスにある港を訪れます。最近では日本主導で魚の缶詰工場もあるようです。

さてゴルフの話です。
私の今のゴルフの実力（９０から１００の間を右往左往）から言うと、胸を張って海外でのゴルフを語れませんが、大学時代、社会人時代はまずまずのレベルに在りました。
私は大学時代体育会ゴルフ部に所属し、ゴルフが性に合ったのか卒業までにはまず

まずの腕前になっていました。尤も私が在籍した一橋大学ゴルフ部は、中学や高校でゴルフを始めた学生の多い私立の強豪校とは格段に差が有るレベルで、関東大学ゴルフ連盟の最下位のブロックに所属していました。そんな中、大学４年生の時の全国国公立大学の選手権では、個人戦で３位になったこともあります。
従って社会人になってからも、海外出張の折は機会が有ればゴルフをしました。ゴルフをした国の数は良く覚えていませんが 30 カ国位だったと思います。事前にゴルフの予定が有ればクラブを持参し、予定がなく偶々ゴルフをする事になった時はクラブを借りてプレーしました。
その中でも印象に残っている国が幾つかありますが、まずモーリシャスでのゴルフについてお話しします。

「モーリシャスでのゴルフ」
モーリシャスは日本人には余り馴染みのない国だと思いますが、先に述べたように日本の船会社所有のタンカーがモーリシャス沿岸で座礁し、油が漏れ、海岸線を汚染したニュースはご存じだと思います。観光が主産業の一つなので海洋汚染は観光業に大きな打撃になったと思います。あの美しい自然を有する国が、海洋汚染に見舞われたのを大変残念に思います。

そのモーリシャスを 1991 年の秋（確か？）に初めて訪問しました。その時はトヨタから IDC（国際デジタル通信社、通信業界の離散集合の波に呑まれて今は存在しません）に出向していて、世界中の国際電話の通信会社（主に電話会社）が一堂に集まって行う実務者の国際会議に、IDC の担当責任者として部下 2 人と出張しました。会議場兼宿泊場所は首都のポートルイスの近くの海辺のホテルでした。島の南に有る空港にシンガポール経由で到着し、タクシーで島の北に有るポートルイスを目指しました。火山岩だらけの土地の岩を除去して積み上げてある緑の畑の中を延々と走り抜け、ホテルに到着しました。

会議は滞在するホテルで行われ、各通信社が通信量に応じて、海底ケーブルや衛星中継による電話回線を何回線ずつ持ち合うかを協議するものでした。私は回線の仕組みの技術的な事は詳しくは分からないので、各国の担当者と挨拶は交わしましたが、実際には実務に長けた私の部下２人が他の通信社と協議し、私はその結果の報告を受けると言った楽な仕事をしました。
従って部下は一日中忙しく会議場のホテル内をあちこち飛び回っていましたが、私は暇だったので、ホテルのプライベートビーチでウインドサーフィンなどを習いながら時間を潰していました。
私の会社生活で最も楽ですが、しかし張り合いのない出張でした。

さて何故モーリシャスに行ったかの背景の説明はこれ位にして、これからモーリシャスでのゴルフの体験をお話ししたいと思います。
が、文章が長くなって来たので、今回は一旦ここまでとして、ゴルフの話は次回にお届けします。

以上

以下モーリシャス関係の写真３枚添付します。

モーリシャスの位置

モーリシャスの風景、

モーリシャス海岸近くで座礁した日本のタンカー
（船長の不注意で起きた事故だそうです）

****

少子化問題の死角　　臺　一郎

このところ世の中は、コロナパンデミックの影響や今後についての話題で持ちきりである。しかし 21 世紀の日本にとっての最大の問題や課題は少子化問題だろう。少子化とは出生率の低下にともない、総人口に占める子供の数が少なくなること。専門的には、

合計特殊出生率＝女性が一生の間に産む子供の数が人口置換水準＝長期的に人口が増減しない水準に達しない状態の続くことでもたらされる社会状況だ。

第二次大戦後間もない 1950 年に 3.65 を記録した我が国の合計特殊出生率は、その後長期にわたり低下が続き、2010 年には 1.39 まで落ち込み、2015 年に一旦 1.45 まで持ち直したが再び低下して、2019 年には 1.36 まで落ち込んだ。結果出生数も 1950 年の 234 万人が 2010 年には 107 万人に、そして 2016 年にはついに 100 万人を切り、2019 年には 87 万人にまで減少した。

国家や社会にとって、人口の少子化が続くことはいったい何が問題なのだろうか。問題はいろいろとあるが、自分は次の 5 点が特に主要な問題のように思われる。すなわち、

1) 少子化が長期に渡って続けば、今世紀末の我が国の人口規模は 5000 万人以下にまで減ってしまう可能性があるという大国からの転落問題。
2) 地方圏において自治体が消滅する、或いは住民の全くいない無人地域が広がっていくという地方圏崩壊の可能性問題。
3) 高齢者ばかりが増え続け、若者の数が減り続けることで社会に活力やエネルギーが無くなっていくという社会的問題。
4) 国や地域で経済の成長が鈍化して、或いはマイナス成長となることで経済規模が収縮し、国民の所得水準が低下していくという日本経済の衰退問題。
5) 子供を持たない、或いは養育経験のない大人の数と割合が増えて行くことによる国民意識等への影響問題

さて、最後の五つ目の問題はこれまであまり指摘されることがなかった問題かと思われる。けれども、これは親の生き甲斐や日本人の成人意識への影響問題で、かなり深刻な事態となる懸念がある。よって本稿で多少掘り下げて考察してみた。

いつの時代でもどこの国でも、子供は親にとっての宝であり、生きる目的や生きがい、或いは懸命に働く主要な動機になっている。けれども子供の数が長期に渡って減り続ければ、親としての意識や使命感や経験を持つ大人の数と割合も必然的に減っていく。そのことがもたらす社会的・経済的影響や日本人の成人意識へのネガティブな影響は想像以上に大きいのではないだろうか。

愛する子供のためならば辛い仕事も耐えられるし、疲れた身体にムチ打ってでも家事にも打ち込める。また離婚や死別でシングルマザー、シングルファーザーになったと

しても、一生懸命に働くのは、愛する子供に不自由な思いをさせたくないという親心からだろう。少子化が続けば、そういう意識や使命感で働くとか生きる成人の数と割合が減ってしまい、それによる社会的・経済的影響は間違いなくあるだろう。

さらに子育ては、養育という経験や体験を通じて、親をも人間的に成長させるという側面が少なからずある。例えば子供を持ち、そして育てることで、自分以外の人間の気持ちにも配慮するようになる人間の数や割合が増えるといった効用だ。こういった成人意識の変化や人間的な成長への影響がどうなるのかも気にかかる点である。

こうしてみると、子供は成人して一人前の働き手や消費者となって初めて社会や経済に貢献するわけではないことに改めて気づく。赤ん坊としてこの世に「おぎゃー」と生まれたその瞬間から、子供は親の生き甲斐や人生の目的、あるいは懸命に働く動機となって、社会や経済の発展や活性化、或いは健全化に貢献しているのである。

いずれにせよ、これ以上少子化が続けばもっぱら自分の生活や欲望のためだけに働く、あるいは自分の人生や幸せのためだけに生きる大人の数と割合を増やしてしまう可能性はかなりある。それは今後の日本社会に想像以上のネガティブな影響を与えるかもしれない。

****

事　務　局

****

＜投稿＞を歓迎します。

天地シニアネットワーク・テーブル・５１６号
発行：２０２１年２月１６日

天地シニアネットワーク事務局　（津田　孚人）

〒１１６－０００１荒川区町屋３－２－１ライオンズプラザ町屋７０３
メールアドレス：tentisenior06@gmail.com
電　　話：０３－３８１９－７６５１
津田・携帯　　：０９０－２５３４－１３１６